

福島・浜通り 原発と生きてきた町

映像資料シリーズ「日本人は何を目指してきたのか」
「地方から見た戦後」(2013年度放映シリーズ、第5回)

福島県東部の浜通り。原発事故で、今も多くの人々が避難生活を余儀なくされている。東京電力福島第一原子力発電所の敷地には、戦前、陸軍の飛行場があり、戦後は塩田が開かれた。現金収入の少ない生活は厳しく、農閑期には多くの人々が出稼ぎに出た。福島県は戦前から只見川や猪苗代の水力発電によって電気を東京に送る電力供給地だった。戦後、浜通りの双葉町と大熊町は原発を誘致し、1971年、第一原発の稼働を迎える。新たな雇用が生まれ、人々は出稼ぎをせずとも暮らせるようになったが、初期の運転トラブルに対する疑問から反対運動も生まれた。国は1974年電源三法を制定し、巨額の交付金を配付。町の財政が潤うなかで反対の声も次第に小さくなっていった。しかし、1990年代になると、交付金で建てた公共施設の維持費などで町の財政が悪化。さらなる原発の増設を求めていった。

そして迎えた2011年3月の原発事故。浜通りの人々は、今、原発と共に生きてきた戦後をどのように見つめるのか。

★番組の上映と制作に携わった2人のNHKスタッフの関連講演があります。



必見!!

東日本大震災やそのボランティア活動に関心がある、日本の原子力政策に関心がある、そして「地方活性化」「産業立地」に関心がある学生・院生は必見です。

日時：2014年12月4日(木) 16:20～

会場：和泉キャンパス 和泉図書館ホール(1階)

講師：東野 真氏 NHKエンタープライズ制作本部情報文化番組
エグゼクティブ・プロデューサー

浜田 裕造氏 NHK大型企画開発センター
本番組メインディレクター

コーディネーター：鳥居 高 商学部教授

予約不要：学部生の受講可能

*学外の方も受講可能です。事前にお電話ください。教養デザイン研究科 TEL03-5300-1529